

府中市健康地域づくり審議会
第14回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成28年8月31日（水） 13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所2階 第一応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 坂 永 弥 生（分科会委員）
水主川 緑（分科会委員） 藤 井 敬 子（分科会委員）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事
 - ①議題 施策の推進状況 少子化対策関連事業について
 - ②報告1 新しいPOMの運営について
 - ③報告2 「ニッポン一億総活躍プラン」について
 - ④報告3 他の分科会との連携について

【主な質疑・意見】

委員： マリトレは自己研鑽でもあり、男女の出会いの場にするのが目的か。

事務局： 自己研鑽を主目的とする。自分の魅力を高めて各種の婚活イベントに参加していただくといい成果があがるのではないかな。

委員： 婚活イベントに参加する方たちとのつながりは。

事務局： 直接はこのイベントに応募された方を対象にとは考えていない。広く自分磨きをしたい人を募集したい。

委員： 人が集まらないなら、婚活イベントに参加する人たちにも呼びかけて、イベントに行く前にここに参加したらいいのではないかな。

委員： 企業等に周知させているのか。

事務局： 昨年、参加を募ってもらえないかとお願いしたが、直接社員への声かけはできないと言われた企業もあった。

委員： どういうところで募集をPRしているのか。チラシか何かでしているのか。

事務局： 現在は、広報への掲載準備中。組織的にこういうところにあたったらいいなどのアイディアがあれば取り組んでいきたい。

委員： 市内の人が目にする広報だけでなく、広範囲にペーパーアイテムを配ったらどうか。また、“マリッジ・トレーニング”というよりも“自分磨き”という雰囲気の影響のほうがいいのでは。もっと今より輝く自分磨きをしようという方向で、婚活している人向けというのが取って見えないようにしてあげたほうがいい

い。わかりにくくなるかもしれないが、そっちの方が手に取りやすくなるのではないか。

委員：「Wink」に載せてみたら内容的にはいいのではないか。ちょっとキャッチフレーズを変えて府中市はこんなのやっていますというのを載せてもらうのはどうか。

委員：広告を見ただけではなかなか行きにくい、内容を見て、自分を育てて自分が魅力的にならないと。なかなか出会いはないから、出会わないといけないと思わなくても、そこで自分が輝いていたらどこで出会うかわからない。

委員：このイクボスセミナーに参加したが、すごく良かった。自分自身に置き換えても、これからは若い人だけではなく、親の介護の問題が出てくる年齢の者がそうなったときに仕事を辞めるのか、半日でも仕事をしてくれと言ってもらって働くのか、それが社会にとって働かないといけないのかというそういう問題になってくる。若い子育て世代だけのことでなく、すべての年齢の方に考えてもらうようなものだった。すごく素敵な話だった。

委員：このマッチング事業はIターンということか。

事務局：Iターンに限ったことではない。もちろん、首都圏等で府中出身の方も是非来てもらったらいと思うが、今首都圏等から田舎暮らしということで移住してみたいと思われている方も多く、具体的には、行ってみたらどういう生活ができるのかを知りたいと思われた方はたくさんいらっしゃるということで、府中市とすれば、「就職」を切り口として誘ってみたらどうかと思っている。今一緒に行っていただく企業にはそういった意欲の高いところに声かけさせてもらって行かせてもらおうと思っている。できれば、全市的にそういった意識づくりを醸成していきたい。

委員：市のPRというのはどういう形のものをするのか。

事務局：ここに挙げたような事業になるが、実際に生活面でこういった子育てサポートがあるのかというのをPRしていく。

委員：東京と比較したものを作成とあるが…

事務局：実際に比較してみると、うちがやっていて東京でできていないものというのはほぼない。東京の方が人口が多いこともあり、制度は充実しているが、本当に利用しやすい制度なのかといったら必ずしもどうもそうでもなさそう。また、通勤時間が短い等のようなところもセットでプッシュしていけばいいのかなと考える。東京にも負けない水準の子育て環境サービスが府中市もできていますよというところを強く押していきたい。

委員：これはファミリー層向けなのか。

事務局：できればファミリー層。若い世代の女性に定住していただきたい。これからの人口維持という面を考えたときには、ターゲットとしては子どもがいる方とか

若い女性の方を考えている。

委員：ファミリー層の女性が全然知らない土地で生活していくときに気になるのは、保育所とか学校のこと、あと病院が近くにあるかないかだと思う。交通機関のことや生活のことがすごく気になると思う。

事務局：府中市に住んだら、こういうイメージなんだろうという情報が欲しいと考える。

委員：産婦人科が府中に無いが、無いとあえて言わなくていいと思う。東京の人でも自分の市の産婦人科へ行っているわけではないと思うから。そうではなく、“交通機関で何分、車で何分のところにこれだけの産婦人科があって、みなさんそこから自分に合ったところを選んで出産されています。”だけでいいのではないか。病院も市内の病院で対応してもらっていて、子どものことでも余程のことは紹介してくださるし、日常的に困ったことは早く診てもらえるというところも言ってあげてもいいかなと。

事務局：周辺市町村等のインフラも含めて使えますよという、実際に暮らしてみても不自由は感じないよというのは大きく PR できると思う。

委員：府中では絶対車が必要になる。車の所有にこれくらい費用がかかる、例えば駐車場代がこれくらいで済むとかというのも言ってあげると、大体の家計のイメージがついていくのでは。それがぱっと見て分かるものがあるといい。

事務局：経産省がそういう暮らしやすさランキングのような見える化しているものを作っているの、それをわかりやすく加工して持って行こうとは思っている。

委員：府中市のある家族の家計簿をオープンしてみたりというのでもいい。多分そこが一番気になるのでは。当然給料が減るから、すごく不安だと思う。

事務局：ご自身のライフプランがイメージできたところが決め手になるのではないかとと思うので、そういったところをイメージできるような資料をこの事業のアドバイザーと今協議しているところ。

委員：U ターンの人が良いと思う。実家があり、自分も住んだことがあって、隣近所があれば、周りの人も警戒しないし、良かったねということになるが、I ターンの人々の土壌が府中にはゼロのような感じがする。警戒するような。閉鎖的な感じ。受け皿の部分をもう少しほぐすとか慣らすという作業もしておかないといけないと思う。

委員：POM で週に2回くらいしているショーは続くのか。

事務局：中身の事業は基本的には引き続きやりたい。指定管理者制度という中で今は社会福祉協議会の方が事業をされているが、5年ごとに公募をかけるので管理される人が変わる可能性があるの、若干中身が形を変えることを否定はできないが、そういったリズム遊びなどは基本的には引き継ぎたい。引き継いでもできるような工作室や調理室や広いスペース等は確保し、好評なので当然続けていくことを想定している。

委員：ますます木育の発信拠点としていただきたい。東京のおもちゃ美術館と一緒に
されているようなので、是非成功させていただいてまたお話をお聞きしたい。

(4) 事務連絡

(5) 閉会 分科会副会長あいさつ